

校長
大保 智

本校の教育の始まり

4月始めの朝刊に「国登録有形文化財旧考古資料館「旧興業館」の活用方針を検討する委員会からの提言書が県教育長に提出された」との記事を見ました。令和3年度創立 113 年目を迎える歴史と伝統のある鹿児島工業高等学校では、現在新しい実習棟の建設中であり、今年度の完成を予定しています。建設中の実習棟を見ると、今から 113 年前の鹿児島郡立工業徒弟学校が草牟田の地に移る前は「興業館」での実習（授業）が始まりであったと、本校創立 100 周年記念誌「鹿工」に書かれてあることを思い出しました。その内容は、『開校まもない明治 41 年 7 月 4 日の「鹿児島新聞」には興業館内における鹿児島郡立工業徒弟学校の生徒の実習時間の様子が次のように記載されている。各生徒共カーキ色の工事服を着けカンナやノミや小刀をふるい甲斐甲斐しく立動く有様は小学校生徒などに観せても多大の参考たるべく、教育家諸氏は一度参観しての必要あらん』と当時の生徒や先生方のものづくりに対する教育の熱意が伝わります。本校の教育方針「よき社会人となるために」「よき工業人となるために」が生まれた原点となる場所のように感じます。

入学式

4月7日(水)に、令和3年度第76回入学式が厳かに行われました。今年は、男子304名、女子56名の計360名の生徒たちが大きな希望をもって、本校113年の伝統を受け継ぐために入学してきました。

宣誓は1年8組の冨永大貴君(東郷学園卒)が行い、今後の高校生活で夢実現に向けた決意がくみ取れる堂々とした宣誓でした。

今年度の入学式も、新型コロナウイルス感染予防対策で例年より時間を短縮して執り行われましたが、式での新入生の厳粛な姿勢は鹿工の未来を明るく輝かせるものでした。



校長式辞



新入生代表宣誓



入学許可



PTA 会長祝辞

歓迎の言葉



生徒会会長
建築系3年
富田 悠暉

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。在校生一同、心から歓迎致します。鹿工は資格取得に長け、全国、九州大会に出場する部活動も多く、活気に満ちあふれた学校です。希望に満ちた初心を忘れることなく、輝かしい歴史、素晴らしい伝統を有する鹿工で過ごす貴重な三年間を充実したものにしてほしいと思います。皆さんが一日でも早く高校生活に慣れ、鹿工を共に盛り上げていけることを期待しています。

鹿児島工業高校に入学して



1年8組
富永 大貴

今までの中学校生活から大きく変わり、わからないことばかりの高校生活がスタートしました。寮生活ということもあり慣れないことばかりですが、優しい先生方や先輩達の支えがあり、充実した学校生活が送れそうです。

これから勉強と部活動の両立や資格取得など、多くの壁に当たることになりますが、同級生の仲間と共に乗り越えていこうと思います。そして、少しでも早くりっぱな鹿工生になれるように日々精進していきたいです。

新入生オリエンテーション

4月8日（木）の3・4校時に、本校体育館にて、新入生オリエンテーションが行われました。教務部、生徒指導部、進路指導部の各係の先生方が、鹿工生としての自覚や学校生活におけるルール、進路選択に向けて取り組むべきことを指導されました。

新入生は、やや緊張しながら真剣な表情で話を聞いていました。早く鹿児島工業高校の一員として、充実した高校生活を送ってくれるよう期待しています。



生徒指導主任



教務主任

部活動紹介

4月8日（木）の5・6校時に、本校体育館において、部活動紹介が行われました。各部活動・同好会、それぞれに新入部員獲得に向けて、パフォーマンスや口頭紹介など懸命のアピールが繰り広げられました。

今年の1年生が3年生になる令和5年には国体と総文祭というスポーツと文化芸術の全国大会が、鹿児島で開催されます。多くの生徒が部活動に入部し、学業とともに鹿工そして鹿児島県を大いに盛り上げる活躍をしてくれることを期待しています。



アーチェリー部



写真部



ボクシング部



機械部

「鹿工山の頂を目指して」

生徒指導部 宮迫 崇文

今年は桜の開花が早く、新入生を歓迎する頃にはすっかり葉桜となってしまったほど暖かい新年度のスタートとなりました。新型コロナウイルス感染症は、未だ収束の気配はなく、学校現場においても、新しい生活様式での過ごし方を余儀なくされていますが適応できているでしょうか。こういう時代だからこそ、「当たり前のことを当たり前にする」心構えを持ち、ブレない心で学校生活を送りたいものです。

さて、令和3年度における生徒指導部の重点目標を3点掲げます。これからの高校生活において、一人ひとりが高い意識で行動を起こしてほしいと思います。

1 「美しさ」の追求

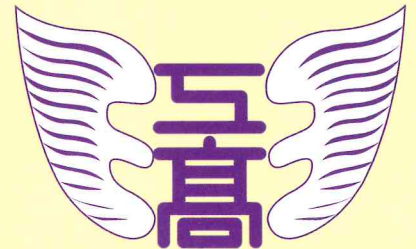
想いを寄せること、思いやる気持ちを持つといった、他者を慮る心、素直さ・謙虚さを忘れない美しい心を大切にし、美しい姿勢での挨拶を心がけ、ゴミ一つ落ちていない綺麗な環境の美しさだけでなく、鹿工を「日本一美しさが漂う学校」にする。

2 「凡事徹底」

当たり前のことを当たり前、徹底してやり続ける。
無遅刻・無欠席・無早退の皆勤を目指す。

3 「日々精進」

自分自身の向上を目指して、日々妥協することなく挑戦する。
挑戦した結果、失敗に終わったとしても、努力し続けたことは自分の糧となる。



以上、3点を念頭に置いて、この「鹿工」での学校生活を充実させていきましょう。「凡事徹底」は、あのPanasonicの創業者、松下幸之助氏が大切にしていた言葉でもあります。「なんでもないような当たり前のことを徹底的に行うこと」という意味です。皆さんにとって当たり前のことはたくさんありますが、まず何よりも学校生活をきちんと送ることです。遅刻をしない、欠席をしない日々を徹底して続けられるかどうか、小さなことかもしれませんが、コツコツ積み重ねていくことを大切にしてほしいです。

皆さん、山登りの経験はありますか？自身の高校生活の三年間を「登山」に例えて考えてみましょう。1年生は、はるか彼方に向かってどこまでも続く頂上までの長い道のりを今まさに登り始めたところ。2年生は、山の中腹の五合目まで差し掛かろうとしているところ。これから先もまだまだ険しい道のりが待っています。3年生は7合目付近まで登ってきて、いよいよ頂上が視界に捉えられるところ。といった感じでしょうか。頂に辿り着くにはここからますます激しくなる登りにも臆することなく、ゆっくりでもいい、その代わり一歩ずつ確実に歩みを進めていくことが大切です。

それぞれが思い描く「鹿工山の頂」に辿り着いた瞬間はどんな感動を味わえるのでしょうか。そこにきっと待っているであろう絶景と素晴らしい感動を夢見て、挑戦する気持ちを忘れずに目標に向かって突き進みましょう。

全国ソフトボール選抜大会準優勝報告

建設技術系3年 中森 凌馬（吉野東中）

私たちは、3月26日から和歌山県紀の川市で開催された全国選抜大会に出場しました。1回戦郡山北工（福島県）、2回戦白鳳大足利（栃木県）はコールドで勝ち進みましたが3回戦からは苦しい試合が続きました。興國（大阪府）に5対2、準々決勝では秋季九州大会決勝で敗れた大村工（長崎県）と対戦し中盤までピンチを凌ぐ戦いを強いられましたが最終回に連打から4点を奪い4対3で勝利しました。準決勝は九州高（福岡県）に3対1で勝利し迎えた決勝戦は啓新高（福井県）との対戦でした。初回先頭打者本塁打を浴びましたが中盤に逆転しました。しかし自分達のミスからピンチを迎え逆転され、2対3で敗れ惜しくも準優勝という結果でした。今回の色々な経験を生かしインターハイ出場を目標に頑張りますので応援宜しくお願い致します。

